空家再生の輪を広げる

空家対策というと、まずは残った空家をどう処分するべきかという話があがりがちですが、空家を処分せずに空家を減らす方法もあります。それが、住まいや仕事、地域活動などにもう一度使える状態に整えて価値を生み直す「空家再生」「空家活用」です。

空家を活用・再生しようとする人が増えるほど、地域の活性化につながります。

ここでは、将来の空家活用の担い手を広げるための取組みを紹介します。

空家インフルエンサー養成講座での現地視察（STONES BAKERY（ストーンズ ベーカリー））の様子

空家再生インフルエンサー

空家再生に取組むだけでなく、その過程をユーチューブやインスタグラムなどのSNSで積極的に配信するなど、多くの人に空家再生のきっかけを与え続けてくれる人を、市では空家再生インフルエンサーと位置づけ、次の取組みなどを通じて、その養成をめざしています。

●助成金制度の創設

空家バンク登録物件を取得・改修し、地域コミュニティの維持・再生を目的にした施設として10年以上活用するとともに、改修や活用の様子をSNSで継続的に発信し、DIY体験会など計画的に開催する者に対し、工事費用の一部（最大200万）を助成する制度を創設します。

●養成講座の開催

昨年12月20日、21日に橋本商工会館で講座を開催しました。2日間に渡り、インフルエンサーとして活躍する講師による講座やDIY体験会、現地視察などを行いました。

①養成講座で、橋本市の空家対策について、真剣に学ぶ
②DIY体験会で電動ドリルを使用して床の張替えに挑戦

③DIY体験会で壁紙の張替えに挑戦 ④現地視察で、高野口乃湯を訪問し、先進事例を学ぶ

当日の様子を橋本市公式YouTubeや市ホームページ（下のQRコード）で公開しています。

空家活用者の声

市内で空家を活用し、新たな形で再生させたお二人に、空家再生の魅力について聞きました。

古民家を菓子屋に

菓子屋uka
店長　田中（たなか） 佑佳（ゆうか）さん

子どもの頃からケーキ屋さんに憧れて、自分の店を持つために接客や製造の経験を積んできました。お気に入りの古民家レストランの影響もあり、自分も古民家という空間を楽しんでもらえるような「古民家パティスリーカフェ」を目指し、空家の活用を決めました。

改装時は、販売スペースの大きな壁の塗装に自ら挑戦し、味のあるオシャレな仕上げに満足しています。

空家再生にあたり、元の住人が、家を再び使い続けることに大変喜んでくれたのが印象的です。元々お店を営んでいた物件ということもあり、当時を懐かしみ来店してくれる人が多く、地域に愛されていた物件を引き受けることができて嬉しく感じています。日本家屋は昔の職人の技が詰まっている唯一無二のものであり、日本の誇りだと思います。古民家などの空家の価値を見直し、後世に残していきたいと思っています。

菓子屋uka

住　所　高野口町大野41番
営　業　11:00～19:00（月・金曜日）
　　11:00～18:00（土・日曜日）
問合せ　（インスタグラム）@u_ _ _ka_ _ _

空家をゲストハウスに

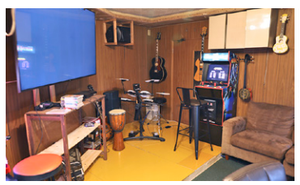
ゲストハウス　ラフテル
オーナー　平井（ひらい） 剛志（つよし）さん

私が空家を再生して一番良かったと感じるのは、地域とのつながりが自然と拡がったことです。

最初は古い家を直すだけのつもりでしたが、作業を始めると近所の人が声をかけてくれたり、昔の住人の話を聞かせてくれたりと、家を通して地域の歴史や人の思いに触れる機会が増えました。地域の集まりやイベントにも誘っていただけるようになりました。空家再生は、古い家をきれいにするだけでなく、地域コミュニティに自然と溶け込むきっかけにもなるんだと実感しました。

空家再生の魅力は、「古いものに新しい価値を与えられること」にあると思います。時間が経った家には、その土地の歴史や暮らしてきた人の記憶が残っています。それを壊すのではなく、今の時代に合った形に手を加えて引き継いでいくことに、文化的にも社会的にも大きな意義があると感じています。新築では出せない味わいや、思いがけない発見も多く、手間はかかっても「育てる楽しさ」があります。空家再生は家を直すこと以上に、地域を知り、人とつながり、自分の暮らしを自分の手でつくっていくプロセスだと感じています。

今後、同じ志を持った人が集まってコミュニティができれば、もっと空家再生の輪が広がっていくと思います。



ゲストハウス　ラフテル

住　所　清水556番地の8
営　業　下記までお問合せください
問合せ　☎070-8982-6661